

## 海外留学の成果報告

福井大学大学院  
工学研究科2年

大西崇太 / 加藤隆太



語学学校の友人達と

留学先

ベトナム  
(ハノイ)

アメリカ  
(ロサンゼルス)

留学期間

平成30年8月11日

～平成30年9月13日



インターンシップ先のベトナム工場

### 支援企業

前田工織株式会社

### 担当者

人材開発部 人材開発グループ

### 担当者から一言

1か月という短い期間でしたが、ベトナム・アメリカと二つの国での留学が、当人たちにとって有意義な経験であったと思っております。4月から社会人になり、更なる飛躍を期待しております。

## ①留学をしようと思った動機

近年、日本企業のグローバル化が進む中でベトナムは新たな生産拠点・消費市場として注目されています。私は以前から海外でも活躍できる研究者になりたいと考えていました。そこでベトナムで海外の生産体系を体験することによって、求められるものづくりについて学びたいと思い、ベトナムへ留学しました。またグローバルな人材にとって必要不可欠な英語力の向上および多様な文化への理解を深めるためアメリカに留学しました。

## ②留学の内容および成果

留学先のベトナムでは、支援企業の前田工織(株)のベトナム工場でインターンシップを受け入れてもらいました。インターンシップでは工場内で、製品の梱包作業などをベトナム人ワーカーの方と共に行いました。私自身、工場働くことが初めてであったため、慣れないことも多く、苦労しました。しかしベトナム人ワーカーの方に作業のコツを教えてもらうことで最終的には目標以上の速さで作業を行うことができました。工場では、手作業による業務に加え、機械による自動化が進められており、業務の効率化が非常に印象的でした。最終日には自分たちが作業に携わった製品の施工例を視察し、ものづくりにおけるやりがいを実感する事ができました。また、ベトナムでは国民性として家族第一であり、残業等を好まないことから、出来高による賃金設定をすることで、生産性アップにつながることが分かりました。

アメリカでは、ロサンゼルスで English Language Center (ELC) に語学留学しました。1 クラス 10 人程度で、日本人が苦手なスピーキングやリスニングに特化した授業であったため、集中的に英会話を学ぶことができた他、ロサンゼルスという様々な人種や言語が共存する場所に身を置いたことで、多種多様な文化を受け入れる受容性が身に付きました。今回の留学をきっかけとして、さらに英語学習を深め、ビジネスレベルでの英会話ができるよう成長していきたいと思っております。

また、日本の良さを発信するために、クラスメイトや先生に福井の伝統工芸品である越前和紙で作製した名刺を配ったりもしました。英語で和紙について説明すると、“Special!” “Cool!” といった反応が得られ、改めて日本のものづくり力の高さを実感する事ができました。



エンゼル・スタジアムにて野球観戦